尾張旭市いじめ・不登校対策委員会　　令和３年２月２日発行

いふだより

このたよりは、尾張旭市内の小中学生の子をもつご家庭や、教職員のみなさん、地域の方に向けて発行しています。

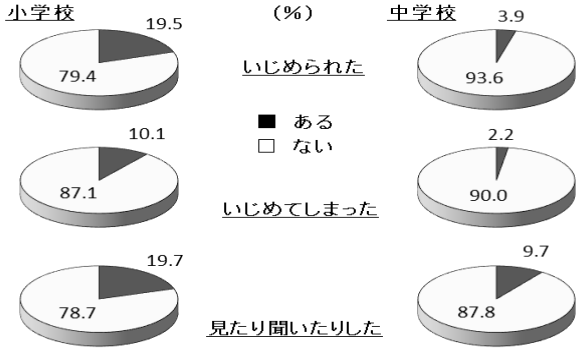
第2号

令和２年度　いじめ実態調査　楽しい学校生活をめざして

毎年、１０月から１１月にかけて、無記名で「いじめの実態調査」をしています。この調査は、いじめの実態を把握し、より効果的な対策を講じるために行われています。集計結果を一部報告しますので、内容について確認してください。教職員、保護者や地域のみなさん、児童・生徒のみんなが一丸となって考え、「いじめをなくす」きっかけにできればと思います。

「いじめられた」と回答した児童・生徒は、小学校で約２０％、中学校で約４％でした。「いじめをしてしまった」という回答と比較すると２倍程度であり、加害側の自覚・認識が低いことがわかります。一方、「見たり聞いたりした」という回答は、被害側と同数程度以上あり、周囲のいじめを認識する力は育ってきていると考えられます。児童・生徒が、正しくいじめを認識したうえで、いじめはいけない、許さないという気持ちをもって行動できるようになることが大切です。

Q:今年度、いじめられた・いじめをしてしまった・いじめを見たり聞いたりしたことはありますか

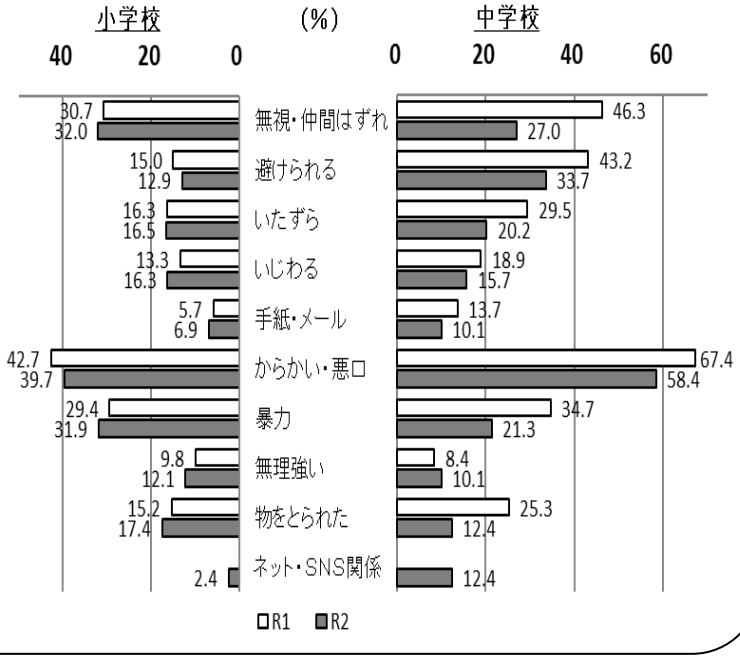


いじめの内容としては、小・中学校ともに「からかい・悪口」「無視・仲間外れ」が多くなっています。「からかい・悪口」には、いわゆる「いじり」も含まれているとみられます。悪意がなくても、相手が嫌がっていれば「いじめ」になりうることを認識していかなければなりません。

また、「無視・仲間外れ」については、加害側と被害側が入れ替わりながら繰り返されるケースがみられます。相手の心を傷つける卑劣な行為であり、やってはいけないことだと一人一人が考えていかなければなりません。

本年度から調査に加えた「ネット・ＳＮＳ関係」の項目については、数値としては高いものではありませんでした。しかし、小学校高学年や中学校では、実際にトラブルも起きており、今後は対応が必要になるケースが増えてくると思われます。学校でも、情報モラル等に関する学習を通して啓発していきます。家庭でも、インターネットを使用する際のルールづくり等、子どもたちと話し合う機会を設けていただくよう、よろしくお願いします。

Q:どんないじめをされましたか



実態調査の結果から、ネット・ＳＮＳ関係の現状が分かりました。しかし、今後は学校でも１人１台のタブレット利用が始まり、ネット等に触れる機会がますます増えていきます。それに伴い様々な問題が起こることも予想されます。そこで、適切な対応につながるよう、尾張教育事務所で生徒指導を担当している岩下徹指導主事から、ネット・ＳＮＳ等の影響について伺いました。

便利さに隠れた子どもたちの欲求の表れ　～ネット、ＳＮＳ等の影響～

尾張教育事務所　生徒指導担当
指導主事　岩下　徹

〈県内での現状〉

昨今、県内で問題行動として挙げられるものの中にメールやＳＮＳ、オンラインゲームに関係するものが増えています。携帯電話やスマートフォンを利用して、他人を誹謗中傷したり、他人の画像を無断で掲載・転送したりして、いじめにつながる事案も目立ちます。特に、中学生になると、グループになって特定の生徒を攻撃し、情報が拡散してしまうと学校では対応できなくなります。また、他校の生徒や大人との繋がりが簡単にできてしまうため、近隣の学校以外にも活動範囲を広げて問題行動を引き起こす事案も起きています。

〈現状は何を表しているのでしょうか？〉

尾張教育事務所管内（１８市町）の様子を見ると、今年度は、特にコロナ禍による約３か月の学校休業、長期的な外出自粛の影響も出てきているように感じます。スクールカウンセラーとの会議で情報提供していただいたことですが、特にコミュニケーションの変化の影響は大きく、子どもたちの社会的欲求がメールやＳＮＳ、オンラインゲームに向いているようです。その仕組みは以下のようです。

❑人から認められたい　→　⦿ネットで情報発信　→　⦿返事が返ってくる　→　⦿うれしい
↑　　↓
⦿もっと認められたい　←　⦿物足りない　←　⦿慣れてくる

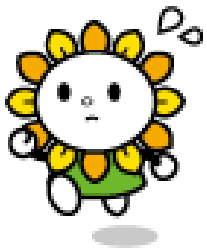
この結果、児童・生徒に生活リズムの変化が起こり、以下のような見えない心の変化も始まるようです。

⦿夜間にわたる脳への刺激 ➡ ⦿脳を疲れさせる ➡ ⦿幸せを感じにくい ➡ ⦿ストレスが溜まっていく

メールやＳＮＳ、オンラインゲームに関係するルールづくりも大切です。しかし、心理面での支援の専門家であるスクールカウンセラーの情報を基に考えると、教員、保護者を含む大人たちが、子どもたちの心の根本にある「認められたい」という社会的欲求をどのように受け止めていくのかという視点の大切さに気づかされます。

〈教員も保護者も同じ思いで…〉

「自分や身近な人が犯罪に遭うかもしれないと不安になる場所は、ネット空間が１位」（2017年 内閣府世論調査）とあるように、大人でも不安を感じる場所へ子どもたちを無防備で行かせることをどう思いますか。そのネット空間へ繋がる携帯電話やスマートフォンは、生活を便利にしたり、豊かにしたりする代表的な道具の１つですが、反面、使い方を間違えると、様々な問題の加害者や被害者になる面も併せもちます。



今後、デジタル革命が進むほど、人は心と脳のバランスを取ることが大切になります。そして、上記の現状に向き合うと、子どもたちに携帯電話やスマートフォン、ゲーム機の使用目的を明確に示して、道具に振り回されないような心構えを育ませるとともに、目の前の子どもたちの心の欲求を感じ取って受け止めることができる大人が必要とされているように感じます。